

令和5年度 第1回千葉県後期高齢者医療懇談会 委員の主なご意見

区分	委員名	意見の要旨	広域連合の対応
被保険者	<p>村上 茂樹 (千葉県シルバー人材センター連合会 監事 (酒々井町会長))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・酒々井町シルバー人材センターでは、コロナが落ち着いた影響もあり、一般家庭からの依頼数は増加している。しかし、入会者数は昨年と同様に増加しておらず、在籍者の高齢化も進んでいるため、依頼にこまめに対応できる人数が十分にいないことが懸念されている。シルバー人材センターなどの活動をきっかけに、積極的に外に出て、活動することは健康寿命の延伸につながると思う。 ・令和6・7年度の保険料率の増加は、ある程度はやむを得ないと思っている。また、出産育児一時金への支援の導入は、これから日本を支えていくのは若い世代なので、後期高齢者も一緒になって支えていくべきだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6・7年度の保険料率の改定については、国の制度改革により、出産育児一時金への支援の導入や、後期高齢者負担率の見直しなどが行われます。今後も、国の制度改革を踏まえつつ、被保険者の過度な負担とならないよう、適切な保険料率を算定してまいります。
	<p>高石 静江 (千葉県老人クラブ連合会 評議員 (袖ヶ浦市会長))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会長として在籍している袖ヶ浦シニアクラブでは、地域で様々な活動を行っている。健康寿命を延伸するためには、旅行やカラオケなどリフレッシュできる楽しみがあることが大事だと思うので、シニアクラブが楽しみを増やすきっかけになると良いと思う。 ・マイナンバーと健康保険証の一体化について、実際に病院でマイナンバーカードを使用するとハードルが高く、高齢者にとっては使いづらい制度だと感じる。 ・令和6・7年度の保険料率の改定について、年金以外の収入がある方からは、「保険料の納付をあまり負担に感じておらず、保険料率の増加は不安に思っていない。」との話があった。 また、出産育児一時金への支援の導入については、子どもを増やすことは大切なことなので、全世代で支えていくことは良いことだと思う。 	
	<p>森元 秧 (千葉県社会福祉協議会 (千葉市社会福祉協議会理事))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市社会福祉協議会として、集会所でほっとカフェやカラオケを開催し、高齢者の居場所づくりや生きがいづくりのきっかけとなるように活動している。 ・高齢者の生きがいづくりのきっかけとなる企画に携わっているが、仕事を引退して、家に引きこもってしまう人を誘うことが課題。 ・令和6・7年度保険料率の改定について、保険料率の増加は、現在の被保険者数の医療費の状況を鑑みるといたしかたないと感じている。しかしながら、被保険者の負担が少しでも軽くなってほしいと思う。 	
保険医等	<p>佐藤 孝彦 (千葉県医師会理事)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健事業と介護予防の一体的実施を進めていくうえで、まずは健康診査の受診率を上げていくことが重要だと思う。また、レセプトなどのデータを活用することで、より効果的な保健事業になっていくと感じる。そのためにも、広域連合と市町村が連携・協力して進めていくことが必要不可欠だと思う。 ・マイナンバーと健康保険証の一体化については、各都道府県と情報共有をしながら、医師会としてどのように病院や診療所をバックアップしていくのか検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度策定する第3期高齢者保健事業実施計画（データヘルス計画）においては、「健康寿命の延伸」を最上位の目標に掲げ、健康診査事業・歯科健康診査事業・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を主要事業と位置づけるとともに、各市町村等と連携し、効果的かつ効率的な保健事業の実施に取り組んでまいりたいと考えております。 ・健康診査事業については、受診率上位市の好事例等を県内の市町村に情報提供を行い、広域連合だよりなど様々な広報媒体を活用しつつ、健康診査受診勧奨に係る新規事業実施も視野に入れた広報啓発を行うとともに、各市町村や関係機関とも連携し、更なる受診率の向上に努めてまいります。 ・歯科健康診査事業については、歯科口腔健康診査受診票に同封する案内文を高齢被保険者に寄り添った簡潔明瞭なものにリニューアルをすることなど、受診率向上の具体的な取組を実施してきております。引き続き、歯科医師会等と連携し、更なる受診率の向上に務めてまいります。 ・令和2年度から開始された「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」については、令和6年度の県内全市町村の実施を目指し、積極的な訪問ヒアリングや情報提供等を行っております。また、レセプトなどのデータを活用しながら、各市町村と連携し、それぞれの市町村の課題に対応した必要な支援を行ってまいります。 ・今後も、被保険者の皆様が安心して必要な医療を受けられるよう、千葉県三師会等との連携を深め、二人三脚で取り組んでまいりたいと考えております。
	<p>早川 琢郎 (千葉県歯科医師会 副会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度策定する第3期高齢者保健事業実施計画（データヘルス計画）において、個別的指標「歯科健康診査受診率」の目標値として令和11年度に17%にするとのことであるが、その目標を達成するための具体的な取り組みについては、積極的に実施してもらいたい。歯科医師会としても目標達成に向けて、千葉県がトップランナーとなるよう全面的に協力していきたい。また、効果的な取組を次期計画にしっかりと位置付けて、計画の最上位の目標である「健康寿命の延伸」につなげてもらいたい。 	
	<p>鷲尾 夢香 (千葉県薬剤師会 研究員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリック医薬品の供給が不足している状況も踏まえつつ、薬剤師会としても、医療費の適正化に向けて被保険者に対してジェネリック医薬品を推進する立場の広域連合と協力して推進していきたい。 ・データヘルス計画の中心的な取組とされている保健事業と介護予防の一体的実施について、現在42市町で実施しているが、残りの12市町村については、体制を強化して、それぞれの課題を把握して来年度以降取り組んでほしい。 	
医療保険者	<p>白駒 勝也 (健保組合 千葉連合会 保健事業部会 副部長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出産育児一時金の負担については、国の施策決定であるため、いたしかたないが、社会保障費は天井知らずで上がっていく状況にあり、今後大きな負担となっていくことが懸念される。 ・後期高齢者医療への支援金については、保険組合にとって過度な負担とならないようにしてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6・7年度の保険料率の改定については、現役世代の大きな負担とならないよう、国の制度改革を踏まえつつ、適切な保険料率を算定してまいります。 ・ジェネリック医薬品の利用促進を図る取り組みとして、差額通知やジェネリック医薬品希望カードやシールの配布、広報等を行っております。今後も医療費の適正化に努めてまいります。
	<p>小野寺 秀樹 (全国健康保険協会 千葉支部 企画総務部長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、後期高齢者医療への支援金が大きな負担となることが予想されるため、後期高齢者医療への支援金の負担を少しでも軽くするために医療費の中でも使用割合が大きいとされる薬剤費の見直しが必要だと考える。 ・協会けんぽでは、ジェネリック医薬品の使用促進について、薬剤師会との連名の広報などを手広く行うことで使用促進に努めているので、広域連合においても医療費の適正化に向けてさらに取り組んでほしい。 	
	<p>五木田 雅之 (千葉県市町村職員共済組合 事務局長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県市町村職員共済組合にとって、後期高齢者への支援金が財源率に占める割合は、令和5年度予算ベースで24%となっている。ジェネリック医薬品を活用するなどの医療費の適正化に努め、支出を見直すことで後期高齢者支援金の負担を軽くしていくことが課題となっている。 ・マイナンバーカードと健康保険証の一体化については、その運用が不透明な部分が多々ある中、「マイナ保険証」を持たない人に「資格確認書」を発行すると、当組合と所属所との間の報告事務のあり方を大きく変えてしまう可能性があることから、その動向を注視していく必要がある。 	
連合長が必要と認める者	<p>諏訪園 靖 (千葉大学大学院 医学研究院 教授)</p>	<p>(総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の個別訪問において、各委員から出された意見を十分に踏まえつつ、今後の制度運営に活かしていただきたい。 	
	<p>石丸 美奈 (千葉大学大学院 看護学研究院 教授)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健事業と介護予防の一体的実施を第3期高齢者保健事業実施計画に取り入れ、連携を進めていくことは非常に良いことだと思う。 ・第3期高齢者保健事業実施計画では、医療費や介護給付費などの共通指標の見える化をより進めてほしい。また、保健事業と介護予防の一体的実施も計画の中に取り入れるため、通いの場への参加有無などによる健康状態の対比ができるとなお良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保険医等の意見に対する広域連合の対応と同様
	<p>井上 恵子 (千葉県看護協会 専務理事)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診査の受診率と保健指導の実施率を上げることは簡単なことではないが、医療関係者や役所内の関係部署との連携をいかにできるかがカギとなると思う。 ・元気に生きるためには、口を使って食べる、飲み込むことは健康に大きく影響するため、歯科は重要であると感じる。 ・第3期高齢者保健事業実施計画を策定するにあたって、被保険者に協力してもらおうきっかけづくりを作ることが必要であると思う。 	